



## 企業の省エネを後押し 《気候保護エージェント》

ハノーファー市と周辺市町村は2020年までにCO2を1990年比で4割減らす目標を立てています。実現には自治体、市民や産業界の協力が必須。ハノーファー地域の気候保護エージェントは公共の利益のため2001年に発足した有限会社で、自治体に気候保護プログラムを提案したり、企業や市民の省エネ活動、再生可能エネルギーのプロジェクトを支援しています。

同エージェントはハノーファー周辺市町村や電力公社、再生可能エネルギー関係の事業所や50以上の企業が会員となる支援組合が出資しています。2006年より力を入れているのが、エコビッツ (e.coBizz) と称した中小企業を対象とした省エネやエネルギー効率化の推進。毎年60から100の企業が無料の「エネルギー効率チェック」を受けています。レストランやカフェ、タバコ屋、事務所、美容院などが対象となります。



上の写真は市内中心部にあるスーパー・エデカ。ドイツ最大のスーパーマーケットチェーンですが(個々の店は個人オーナーの所有になる)、エコビッツをきっかけに改装し、エネルギー消費の50%削減に成功しました。同店では古い冷蔵庫が多量の電気を消費していたうえ、夏場はその排熱で売り場が不用意に熱くなっていました。

改装により集中冷気製造装置を中庭に設置し、冷気をパイプで店内に。冷気にはほとんど水分が含まれていないため、以前は1日4回冷凍室の氷を解凍する必要がありましたが、今では月2回となりました。天井に空気交換器を設置し、冷却装置である同装置の排熱を冬は暖房、夏は冷房に使っています。壁に断熱材を入れ、ショーウィンドウは2重ガラスにしました。以前はポイラー2基で灯油を燃やして暖房していましたが、一切不要に。

改装前に34万4000キロワット時だった電力消費は、改装後18万キロワット時とほぼ半分に減りました。エネルギー分野の改装費は30万5000ユーロで、12年間で採算が取れます。金銭的な効果だけでなく、室内の空気が快適になり、客の満足度と社員の士気が高まり、売り上げが増えました。省エネとエネルギー効率化による気候保護は、新しい技術の開発やサービスを生み出すほか、地域の活性化にもつながります。

ごみかんドイツ特派員 田口 理穂

### ドイツで子育て



3月から日本語の補習校が始まりました。今年4月に1年生になる明は3月から週に145分、日本語を習います。州の支援により授業料無料。明の学年は7人で、うち5人がハーフ。ハーフ組は赤ちゃんのころから日本人子ども会で一緒に遊んでいたため、和気あいあいとした雰囲気です。「本を読む喜びを知れば、文字は自然に覚える。ひらがなカタカナを6月ごろまでに読めるようになればいい」と先生はいますが、たくさん漢字をどう教えるか。親がうちで頑張らなければなりません。強制するのではなく、なんとかやる気を持って学べるようにできないものか考えているところです。よい案がありましたら、教えてください。